

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1072400292		
法人名	株式会社 彩華舎		
事業所名	グループホーム さいら		
所在地	群馬県甘楽郡甘楽町小幡376-1		
自己評価作成日	平成22年8月23日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成22年9月7日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<ul style="list-style-type: none"> ・御利用者様・御家族様に協力していただきながら、畑で野菜を栽培しています。作った野菜は毎日の食事で提供し、御利用者様方にもご好評頂いています。 ・衛生面に配慮した上で、施設外にいる子猫や小動物と関われる時間を提供しています。 ・御家族様が御利用者様とちょっとした買い物やドライブ外出に出掛けやすい様に配慮し、関係が希薄にならない様な対応を行っています。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>利用者一人ひとりの生活歴、思い、出来ること等を的確に把握し、環境が変わってもその人らしさが継続出来るよう、日々の生活の場面での取り組みが行われている。このことは訪問中に於いても利用者の言動や職員の対応等から窺い知ることが出来た。職員が書くことにより自己の思いや要望を確認しながら管理者等に伝えるということも含め、職員会議前後にレポートを提出していることはより良いサービス提供のために、意義のある取り組みと思われる。職員の都合によらず利用者の思いを大切に、曜日や時間を決めずに利用者が希望する時にいつでも入浴の支援を行っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	日々のスタッフ指導や月一回のスタッフ会議で理念についてアドバイスや取り組みを行っています。また、勤務者同士で、部分的ではありますが、理念と実際の介護について話し合っています。	地域との和合を盛り込んだ事業所独自の理念が作成されており、会議、申し送り時、日々利用者に関わる際に理念を振り返りながら、職員同士で話し合い、理念の実践に向けて取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設周りの早むしりを行っている際、隣の方が声を掛けて下さったり、一緒に手伝って下います。また、お隣のお子さんが施設外の子猫に会いに来ることがキッカケですが、利用者様とも気軽に話をさせて頂いています。	町興しを目的としてグループホーム設立が考えられた経緯があり、地域との触れ合いを日常的に大切にしている。神社の祭りや武者行列等の地域の行事に参加したり、近隣の人と親しく行き来する等して交流の機会を持っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	御家族の辛い介護体験を聞く機会があり、在宅中にお話を伺うことが出来れば、御家族の辛さも変わっていたのではと思われました。介護に携わってきた経験を活かせる様な、地域貢献の方法を考えていきます。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の参加者からは、観光地が整備されたから行ってみたい？町内で植えている花を敷地内に植えることで、地域にとけ込める、などのアドバイスを頂き、全職員に会議等で伝え、行動に移せる様に検討しています。	運営推進会議は年に6回開催されており、事業所や職員の状況・評価の結果等についての報告をし、参加者と意見交換を行っている。地域の観光地の情報を受けたり、避難訓練実施や推進会議開催日の件等に対して積極的な意見があり、出来るだけ希望に沿う方向で話し合いサービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	毎月詳細な活動報告書と事業所便りを市町村担当の方に直接提出しています。また、入退居や事故発生時はこまめに報告しています。	毎月の活動報告書・事業所だより・認定申請書等を市の担当者を訪ねて提出する際に事業所の実情についても話し合っている。入退居の状況や事故発生等についても電話や直接出向いて報告している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	当ホームでは玄関の施錠は夜間～明け方まで行っています。立地状況が人や車の通りが少なく、防犯の為です。身体拘束に対しても、社内研修等で、3ロックについてを行い、やむ終えない状況に至っては、管理者や他のスタッフに協力・相談を行う様に指導しています。	法人内研修が2ヶ月に1回行われており、身体拘束についても学習している。施錠は夜間のみで日中は玄関の鍵をかけていない。各居室からも自由に屋外への出入りが出来る等、職員の見守り等により抑圧感のない暮らしの支援に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する書類を職員に渡し、学ばせたり、事業所内で虐待を生み出さない様に、介護ストレスや人間関係を常に把握、調整に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現状では、研修への参加は出来ていませんが、介護福祉士等の試験を受ける職員が増え、試験勉強時に、自ら学ぶ姿勢は見られています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結・解除時には運営規定や重要事項説明書に基づいて、御家族の納得が得られるよう、一つ一つの項目に対して説明を行うよう努めています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会に来る御家族を通してや利用者様から聞かれた不満や苦情に関しては、管理者、職員間で直ぐに伝え合い、共有して対応していますが、記録上に残す事が不足している為、今後は努めていきます。	家族等の来訪時や運営推進会議等の場で何でも気軽に話してもらえるような雰囲気作りに留意している。出された意見や要望は職員間で話し合い出来ることからサービスに反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員からの提案や意見は、管理者に直接伝えたり、スタッフ会議での議題にし、全員で取り組む様に努めています。また、提案等を代表者や社内の担当者に報告し、認識して頂いています。	職員は職員会議の前後に提案やテーマにそっての意見等のレポートを提出しており、管理者は各職員の意見や要望を把握し、代表者や社内の担当者に報告、運営に反映させている。又、会議の場や個人的にも意見等を直接聞くようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に一度、各事業所管理者と事業部長が集まり定例会議を行い、各事業所の利用者様や職員の状況等を報告し、その場で解決に向けた話し合いを行い、実践に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修に参加したり、社内では各段階の職員を分け、その段階に見合った研修を定期的に行っています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所との交換研修を行ったり、行事に参加させて頂いています。また、社内研修に他の事業所の方を招き、参加して頂きながら、交流出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居すると決まってから、御本人の状態や人柄等を把握する様に努めています。また、入居初期には自己紹介から始め、礼儀を持って失礼の無いコミュニケーションを行う様に、指導しています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	御家族の不明な・不安な点を把握し、電話対応等も含めて丁寧な対応に努めています。また職員間でも、御家族の面会の際に、御本人も交えて会話をしたりその場で受けた質問には答えられる様に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人と御家族の心身状態や経済状態等を勘案し、当事業所以外のサービスが適していると判断された場合は、他の事業所を紹介する等の対応を行っています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が自然に発せられた欲求や感情を大事にする為に、業務の見直しを常に行う努力をしています。利用者様と食事作りや洗濯物干し等の家事作業を共同で行ったりと一緒に過ごしているを意識する様に努めています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	事業所側で全てをこなし、御家族の介入が無いのを良しとするのではなく、御家族にも、利用者様の状態を知って頂き、協力して頂ける様な関係作りを心掛けています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人、友人の方の面会時には丁寧に対応し、ゆっくり過ごして頂ける様に配慮しています。また、慰問や行事等にも参加し、参加して頂ける様に取り組んでいきます。	地域に暮らす友人や知人が遊びに来ており、これら馴染みの人達との関係が途切れないよう支援に努めている。昔訪ねた場所に花を見に行きたいとの希望でお連れすることもある。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様一人一人の性格や傾向、人間関係を把握し、それに合わせたレクリエーションや家事作業を行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談等は管理者の訪で随時受付、御家族や御本人が顔を出しやすい関係性を保っています。また、退所先等に職員が会いに行く事もあります。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話、行動から、それぞれの思いや希望を汲み取り、把握する様に努めています。その為に、コミュニケーション技法等を職員が日々勉強し、身に着ける努力もしています。	日頃の関わりの中での会話や利用者の言動からその真意を推し測り、そこから得た情報は連絡ノート等に記録して、職員は共有している。意志疎通の困難な方は家族や関係者から情報を得ている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	職員と御家族との信頼関係が築ける様、配慮し、御本人から聞いた昔話の確認や、入居前までの情報を取得する。教えて頂いた情報は職員間で共有し活かしています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人をしっかり観察し、状態の変化等を記録に残し、状態を把握しています。定期的なスタッフ会議にて情報・意見交換も行っています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	主治医や週一回訪れる看護師とも意見交換を行い、担当職員が中心となって意見や状況をとりまとめ、介護計画を作り、見直しに努めている。御家族の方とも状態や対応方法の報告、意見を頂いている。	本人や家族の意見や要望を踏まえて、医師・看護師と意見交換を行い、担当職員が中心となって話し合い介護計画を作成している。毎月1回のモニタリングと3ヶ月1回の見直しを行っているが状況に変化が見られた時には随時の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の気付きは口頭の申し送りの他に記録に残したり、担当職員とのミニカンファレンスやスタッフ会議の中で検討や見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様や御家族に選択肢を多く提供出来る様な環境整備に配慮しています。提供している対応方法を変える必要がある場合には、直ぐに変更出来る様に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元のシルバー人材センターを活用したり、小・中学生や地域の方の慰問を受け入れています。御家族でボランティアにきたいと話を頂き、積極的に受け入れ、外部の空気を取り入れる様に努めています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医の月一回と往診にて診断を受けたり、利用者様の健康状況に変化があった際には、必要に応じて、利用者様や御家族に承諾を得て、受診前後の状況や対応方法について報告します。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を週一回の来所と24時間連絡が取れる状態で配置しており、健康管理や対応方法、御家族への説明の仕方等についての相談、話し合いを行っています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族の意向を中心に、医療機関と連絡を密にし、御本人の状態の可能な受け入れ機関を常に検討しています。また、入院後には足を運び、退院に向けての受け入れの準備を整える努力をしています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	御本人や御家族の臨む終末期を主治医や看護師と連携し、確認すると共に日々の生活の充実を図る為の対応方法を話し合っています。また、方針が決まった際には、御家族に対して有事における同意書をとる様にし、急変時の体勢を整備する様にしています。	重度化や終末期における事業所の対応について医師や看護師などと話し合っているが、現在は事業所の基本的な方針は出来ていない。	本人や家族等にとって重度化した場合の事業所の方針は大きな関心事である。事業所の力量や体制を考え、対応しうる基本的な方針を定め明文化して、家族等に説明することを期待する。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	スタッフ会議で応急手当の項目を設けたり、職員間で注意する点や疑問な点について話し合う様に努めています。また、避難訓練時に適切な対応方法等も教えて貰っています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回の避難訓練の実施。避難経路図を近隣住民や運営推進会議の参加者に配布しています。火災以外の災害に対する対応方法については不足している為、今後、体制作りに努めます。	消防署の協力を得て、年に2回夜間を想定して避難訓練を実施している。避難訓練の案内は近隣住民や運営推進会議の委員にしており、委員の方の参加があった。災害時に備えた備品等の準備は行われていない。	職員だけの誘導の限界を踏まえて、特に近隣の方には災害時対策に対する理解を求め、災害時の協力を積極的に依頼することを期待する。災害時に備えての備品についても話し合っ欲しい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様を人生の先輩という意識を常にかけて仕事に取り組んでいます。親しみの感情が馴れ馴れしい態度にならない様に指導しています。	常に利用者の立場に立つての言動を心掛けているが、気付きのあった時には話し合いを持っている。特に慣れすぎたの言葉づかいは配慮している。個人情報の取り扱いに関しては入職時に誓約書を交わし秘密保持の徹底を図るよう留意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様からの話を傾聴し、その方が今、何を臨まれているのかを理解するように努めています。御本人の決定や意志を尊重できる環境作りをしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	業務棟に厳密な決まりはなく、利用者様の状態に応じた柔軟な対応が出来る様になっています。また、利用者様一人一人の生活リズムを把握し、居心地のいい生活が提供出来る様に支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問理美容を2～3ヶ月に定期的に利用しています。御本人の希望に合わせて入浴を行ったり、鏡を見て顔にクリームを塗ったり、整髪する等、自己決定を尊重しつつ支援しています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が好む物や季節感のある食事作りを心掛けています。職員と一緒に食材を刻んだり、混ぜ合わせたり、畑に食材を採りに行ったりと食事への興味や食欲が増すような工夫を行っています。	ホーム菜園で採れる季節の野菜を取り入れた献立により利用者と職員と一緒に食材の準備や盛り付けを行い、一緒に食事を楽しみ、後片付けや食器拭き等を行っている。土、日曜日は希望メニューの日として利用者の希望の食事を提供しており、うどんの出前をとることもある。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の時間や目安として決まっていますが、御本人の状態に応じて時間をずらしています。また、水分に対しても、時間を決めずに、利用者様やその日の様子に応じて提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に行う方や朝・夕食後のみの方もありますが、一人一人の方に合わせて、対応方法を考えながら行っています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	安易にオムツの使用はせず、排泄の兆候やリズムを観察し、出来る限りトイレでの排泄の誘導に努めています。その日の状態を職員間で共有し、状態に合わせた対応も行います。	排泄記録表を使用し、習慣や排泄パターンに応じた個別の支援を行っている。利用者の言動に気を配り、排泄の兆候を把握して安易にオムツを使用せず、トイレでの排泄を大切に考えている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者様の一日の様子や行動を把握し、トイレ誘導を兼ねた運動や、散歩にお誘いする等、活動量を増やす為の工夫した対応方法を考えて取り組んでおり、主治医と相談しながら、内服薬を調整しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	時間や曜日を決めず、利用者様の希望した時間に入浴を行っている。また、その方の入浴動作の可動域を把握し、利用者様のペースで入浴できる様に配慮し、全身状態の観察も行っています。	利用者一人ひとりの希望やタイミングに合わせた入浴の支援を行っており、入浴したい時にいつでも対応できる体制が出来ている。菖蒲湯や柚子湯等季節感を取り入れる配慮も見られる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者様の一日を生活として捉え、日課や行動、動作を把握し、自然な休息や睡眠が出来る様に支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方内容の変更があった場合には、申し送りにて職員間で共有し、変更になった理由、その後の状態についての把握に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常的な関わり合いの中での発言や行動から利用者様それぞれの嗜好や性格などを把握し、その上で選択肢の提供をしています。そして、楽しみながら役割を持って頂ける環境を作っています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	その方の状態や天候等の理由により外に出られない事もあるが、御本人が希望された時に散歩や草むしり・外気浴等の戸外活動を行っています。車椅子の方や歩行器を使用されている方もお誘いし、出たいときにいつでも出られる様努めています。	天候や利用者の希望・体調等を考慮しながら近隣の散歩、ドライブ、草むしり、屋外でのお茶のみ等戸外に出て気分転換の出来る機会を積極的に作っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理が可能な方には、その能力を尊重し、身の回りの品物を自己決定にて購入出来る様に支援しています。御家族へも、金銭管理についての理解と支出の把握を説明する様に努めています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者様から要望が聞かれた場合には、見守りの中、電話が行える様に支援しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂にソファ、玄関に椅子、園庭にデッキチェア等を設置し、利用者様一人一人がくつろげる場所の確保をしたり、気のあった方々が和めるような環境支援を行っています。	ホールは天井が高く開放感があって明るく、3方の窓からは草花や里山の景色を楽しむことが出来る。フロアの飾りつけは華美にならず、行事の写真や季節の装飾品を配して落ち着いた居場所となっている。植木の手入れが行き届いた園庭にデッキチェア、玄関に椅子、食堂にソファと利用者が休んで寛げる居場所の配慮も見られる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間にも広がりを持たせ、静かに過ごしたい人や読書をした人等、それぞれが自分の居場所を見付け過ごせる様にソファや椅子、本棚等の配置をしています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に使い慣れた物や家具を設置したり、利用者様が希望する物は御家族と相談し対応しています。ベッドや布団、畳等も、身体の状態にもよりますが、出来るだけ引き継げる様に努めています。	利用者はそれぞれテレビ・仏壇・筆筒・テーブル・ソファ・時計・家族の写真・化粧品・季節ごとに楽しめるタペストリー等、使い慣れたものや馴染みの品を持ち込んでおり、個別性のある居室作りが工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	内部の床はマットで要所に手摺りがあります。また、利用者様の状態を把握し、過剰な介助は行わない様に努め、廊下や食堂に事故に繋がる様な危険な物や置かない様にしています。自室はこまめに環境の整理を行っています。		